

第2回鬼怒川堤防調査委員会  
議事要旨<速報版>

1. 日時 :平成27年10月5日(月)10:00~12:00

2. 場所 :さいたま新都心合同庁舎2号館5階共用中研修室5B

3. 出席者 :

委員長

安田 進(東京電機大学理工学部教授)

委員

池田 裕一(宇都宮大学大学院教授)

佐々木 哲也(国立研究開発法人土木研究所上席研究員)

清水 義彦(群馬大学大学院理工学府教授)

関根 正人(早稲田大学理工学術院教授)

高橋 章浩(東京工業大学大学院教授)

東畑 郁生(公益社団法人 地盤工学会 会長)

服部 敦(国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究室長)

4. 議事概要:

- ・ 本日の第2回鬼怒川堤防調査委員会では、決壊原因の特定や堤防決壊のプロセスについて議論した。事務局から、堤体や基礎地盤の詳細な調査結果や実際に越水や決壊の現場を見た人たちからの聞き取り調査、決壊の様子をとらえた貴重な映像などが提示された。その結果、鬼怒川の常総市三坂町における堤防決壊の原因について特定するに至った。

5. 決壊原因の特定

- ・ 鬼怒川流域における記録的な大雨により、鬼怒川の水位が大きく上昇し、決壊区間において水位が計画高水位を超過し堤防高をも上回り、越水が発生した。
- ・ 越水により川裏法尻部から洗掘が進行し、その後、堤体の一部を構成する緩い砂質土(As1)が流水によって崩れやすくなり、小規模な崩壊が継続して発生し、決壊に至ったと考えられる。
- ・ 越水前の浸透によるパイピングについては、堤体の一部を構成し堤内地側に連続する緩い砂質土(As1)を被覆する粘性土(Bc 及び T)の層厚によっては発生するおそれがあるため、決壊の主要因ではないものの、決壊を助長する可能性は否定できない。
- ・ 浸透による法すべりや川表の侵食が決壊原因となった可能性は小さいと考えられる。